

令和元年度の進捗状況(案)

学校法人番号	361001	学校法人名	四国大学		
大学名	四国大学				
事業名	「阿波藍」の新たな価値創造を目指した文化的・科学的研究及びその魅力発信・人材育成拠点の構築				
申請タイプ	タイプ A	支援期間	5 年	収容定員	2394 人
参画組織	新あわ学研究所、人間生活科学研究所、藍の家、地域教育・連携センター 機器センター、全学共通教育センター				
事業概要	地方の活性化、特に地域産業の興隆に対する大学への期待は大きい。本事業では、地元自治体・産業界とも連携する中で本学の教育研究資産を活かし、徳島の歴史的産業資源である「阿波藍」に関する歴史的・文化的な体系化及び本格的な科学的分析研究による機能性表示食品の創生と大学オリジナルの染色藍（SU Blue）の創出を行うとともに、その魅力の世界へ向けた情報発信・人材育成の基盤を構築し、研究・地域貢献型大学としてのブランド向上を目指す。				
①事業目的	かつて藍染は、本学の所在する徳島県の伝統文化・産業の中心として重要な役割を担っていた。近年、再び藍は Japan Blue と称され深く鮮やかな色合いを持つ天然染料として再認識されているが、古くから伝承されている藍の持つ機能性にも注目が寄せられている。 そこで、未解読の古文書等の文献調査による藍文化の体系化や藍染技法の研究、新たな産業の創出を目指した藍の機能性に関する科学的研究をとおして、藍の持つ多様な魅力の情報発信及び人材育成の基盤を構築し、研究・地域貢献型大学としてのブランド向上を目指す。				
②元年度の実施目標及び実施計画	<p>【目標】 実施3年目にあたり中間評価を行い、進捗状況の確認を行う。</p> <p>【計画】 藍国際フォーラムの開催（藍の情報発信） 「藍の家」の改修、古文書・染色・食べる藍に関する調査・研究を実施する。 ※文部科学省より支援期間を3年に短縮する旨の通知があり、最終年度となる。</p>				
③元年度の事業成果	<p>【国際フォーラムの開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県が制定した藍月間の7月に四国大学で開催し、240名が参加した。</li> <li>・海外で藍に係わりのある演者3名を招き、講演会開催、その他語り場・展示を行った。</li> </ul> <p>【藍の家】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「藍の家」藍染用大型槽及び蓋を設置した。</li> <li>・「藍の家」2階の照明設備をLED電灯に交換、障子張り替えた。</li> <li>・「藍の家」1階染場の整備等を行った。</li> <li>・「藍の家」所蔵の藍染作品等を写真撮影し、デジタルデータベース化した。</li> </ul> <p>【古文書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石井町にある「高橋家」「林家」「武知家」所有の藍に関する古文書を撮影し、デジタルデータベース化するとともに目録を作成した。また、データベース化した古文書の解読作業を行った。</li> </ul> <p>【沈殿藍】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立城西高校の生徒と四国大学の学生が協働して、城西高校で栽培したタデアイから沈殿藍を製造した。製造した沈殿藍を利用して「藍墨」に加工し、書道パフォーマンスを行った。</li> </ul> <p>【食べる藍】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タデアイ葉中の機能性成分を特定するため、ラットを使った動物実験を行った。その結果、体重増加抑制、腹腔内脂肪重量の減少や血清脂質低下に影響を与える機能性成分が特定できた。</li> </ul> <p>【機能性成分分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タデアイ葉中の染色に関係するインディゴ、インディルピンや機能性成分の分析方法を検討し確立した。</li> </ul> <p>【LED植物工場での栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県内の企業と共同で、LED植物工場タデアイ栽培試験を行い、LED光源の違いによる機能性成分含有量の差異について確認を行った。この試験は、今後も継続の予定である。</li> </ul>				

	<p>【広報活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット第3号、第4号発行</li> <li>・四国大学研究ブランディング事業（愛称：SUBARU 事業）事業報告書発行</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四国大学出張キャンパス in トモニ SunSun マーケットでのブース出展</li> <li>・藍フェア in Tokushima Marche でのブース出展</li> <li>・あすたむらんど徳島 サイエンスフェアでのブース出展</li> <li>・農林水産省「消費者の部屋」徳島県主催特別展への協力（パネル、SUBARU 事業紹介映像を提供）</li> <li>・徳島新聞に SUBARU 事業紹介広告を掲載</li> <li>・徳島県主催「徳島藍の日記念フォーラム」でのパネル展示</li> <li>・生涯学習講座「新あわ学コース」での講座開催 「藍の可能性」</li> <li>・「藍 LOVE 新町川」イベントでの学生によるパフォーマンス披露</li> <li>・藍住町主催「インディゴコレクション 2019」ファッションショーに学生が参加</li> <li>・徳島インディゴソックスへ藍染 T シャツを贈呈</li> <li>・徳島県主催イベントで「藍墨」を使った書道パフォーマンスを学生が披露</li> </ul>
<p>④元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>（自己点検・評価）</p> <p>実施計画に則り調査・研究が推進できた。 特に「阿波藍」の情報発信に関わる「藍国際フォーラム」の開催や県内イベントでの広報活動が実施できた。 また、「藍の家」所蔵の藍染作品等のデジタルバース化を実施するための写真撮影を行った。 ※ 国からの支援は、令和元年度で終了するが、大学として「藍の知の拠点」の構築を目指した本事業を当初の計画に則り継続する。</p> <p>（外部評価）</p> <p>徳島の重要な財産である「藍」の歴史を掘り起こすとともに新たな魅力を発見するなど意欲的な取り組みであり、地域への大きな貢献であるとの高い評価をいただいた。その中で大学が取り組んでいる事業の広報活動については更なるアピールを期待するとの声も聞かれた。 国の支援は終了するが、事業自体は継続する意思が示されたことも評価いただいた。</p>
<p>⑤元年度の補助金の使用状況</p>	<p>藍染用大型槽の設置、藍の家改修 古文書のデジタルデータベース化及び解読作業、藍染作品等のデジタルデータ化 藍国際フォーラムの開催 タデアイ葉中の機能性成分分析及び動物実験の実施 ブランディング事業の広報 パンフレット発行、事業報告書発行</p>